

平成30年度 年間授業計画

教科	家庭科	科目・講座名	家庭基礎	単位数	2 単位
学年・クラス	1学年		担当教員		

教科書・教材	新図説 家庭基礎 (実教出版)
--------	-----------------

教科・科目のねらい (目標)

将来、どのように生きていくのか、人との関わり、暮らしに関わる制度、消費者としての自覚、生活の根幹である衣食住について、学習する。学習内容を自分のこととして捉え、生活の中の課題を発見し、改善するように知識・技術を習得、次世代に向けて何をすべきかを考える。

評価の方法・観点

<p><観点> 自分の生活や社会に関心を持ち、総合的にとらえて、積極的に課題を見つけて学ぼうとしているか。 生活に必要な知識や技術を習得するために、実習や課題に積極的に取り組み成果が得られたか。</p> <p><評価> 毎回の授業への取り組みと提出物、定期考査、出席状況により総合的に評価する。</p>

	授業内容	予定授業時数
1 学期	1 人とかかわって生きる <自分について> 自分を見つめる、自分らしく生きる、ライフステージと発達課題、職業と生活時間。 2 生活をつくる <食生活について> 食生活、五大栄養素、食品の選択と保存、食品の衛生と安全、 食事摂取基準と食品群別摂取量の目安、調理実習	24 時間
2 学期	3 人とかかわって生きる <家族について> 変化していく家族・家族と家族の抱える問題、家族に関する法律。 4 消費者として自立する <家庭経済> 消費行動を考える、消費行動と契約、販売方法と問題商法、消費者信用、環境と消費、家計。 5 生活をつくる <被服について> 衣 服の機能、衣服素材の性能、繊維の改善・加工、衣類の手入れ、洗濯と保管 6 住居 <住居について>	26 時間
3 学期	7 福祉 <子どもと関わる・保育> 子どもを知る、からだの発達、知能の発達、生活習慣・健康管理・安全、 子どもの食生活・衣生活、子どもと遊び、人間形成と親の役割、健やかに育つ環境 8 福祉 <高齢者とかわる> 高齢者の心身の変化・生活、豊かな高齢期を迎える仕組み まとめ <ライフコースについて考える>	20 時間
計		70 時間

備考

予定授業時数は、行事等の状況やクラスによって、若干異なる場合がある。
 授業内容は進度状況に応じて、多少の変更もありうる。

平成30年度 年間授業計画

教科	家庭科	科目・講座名	子どもの発達と保育	単位数	2	単位
学年・クラス	3年選択		担当教員			

教科書・教材	子どもの発達と保育 新訂版(実教出版)
--------	---------------------

教科・科目のねらい (目標)

乳幼児の発育・発達の特徴を理解し、乳幼児の生活と保育などに関する知識と技術を習得する。
 保育者を目指す者への自覚を促し、子どもに関わる意欲や能力を理解し、実践的な学習を通して、保育者としての役割を考える。

評価の方法・観点

- ①保育の必要性・意義を理解し、子どもをどう育てていくか・向き合っていくかを考えられるようにする。
- ②必要な知識や技術を習得するために実習や課題に積極的に取り組み、成果が得られたか。
- ③評価: 毎回の授業への取り組みと提出物、作品・定期考査により総合的に評価する。

	授業内容	予定授業時数
1 学期	1 子どもの接し方 子供の言語能力の伸長を図る接し方 2 子どもの発達の特徴 児童観/発達観 保育環境について 3 子どもの発達と発育 子どもの発育・精神発達・人間関係の発達 保育の現状と問題点等を考えながら、自己の保育観や職業としての「保育」の現状について、さまざまな角度から考える。 (カレンダー作り) 4 子どもの保育 保育の意義と重要性・家庭保育と集団保育・保育方法と指導法	24 時間
2 学期	5 子どもの生活 子どもの生活・子どもの遊び・生活習慣の形成・健康管理と事故防止 各種製作、実習等を入れながら、体験的に学習する。 (エプロンシアター 製作)	26 時間
3 学期	制作物の発表	20 時間
計		70 時間

備考

予定授業時数は、行事等の状況やクラスによって、若干異なる場合がある。
 授業内容は進捗状況に応じて、多少の変更もありうる。